

業務そくほう

日本貨物鉄道産業労働組合

2022. 11. 10

No. 681

2022年 年末手当交渉

会社の考え

会社・2020年年末手当(1,6ヶ月)の状況より厳しい。

**組合・会社の業績だけで判断するのではなく、将来を見据えた
長期的ビジョンで判断願いたい。**

【現時点の会社の考え方について】

2022年度は、「JR貨物グループ長期ビジョン2030」及び「JR貨物グループ中期経営計画2023」のもと、貨物鉄道の役割発揮とさらなる収益性の向上、総合物流企業グループへの進化、不動産の利益拡大等の取り組みを進めてきた。

社外に向けては、4月に鉄道事業基盤の強化とSDGsの実現を両立する調達を目指す「JR貨物グループサステナビリティ調達方針」を策定、7月には環境長期目標「JR貨物グループカーボンニュートラル2050」を策定し、2050年度にCO2排出量の実質ゼロを目指すこととした。

また、国土交通省の有識者会議「今後の鉄道物流のあり方に関する検討会」の中間とりまとめでは、貨物鉄道輸送量を伸ばすための14の課題と今後の取り組みの方向性について提言され、これを受け、当社では取り組み内容の具体化に向け、2025年度までに達成すべきKGI及びKPIを策定した。

各部門の主な取り組みとしては、鉄道ロジスティクス事業においては、2024年トラックドライバーの労働時間規制強化への対応やカーボンニュートラル・SDGs取り組み企業に対するソリューション提案などお客様に選択されるための商品づくりと増送に向けた営業活動の強化・充実を図り収入の確保に努めた。

また、総合物流企業グループへの進化への取り組みでは、「東京レールゲートEAST」が2022年7月に竣工した。2020年3月に先行稼働した「東京レールゲートWEST」、2022年6月に営業開始した「DPL札幌レールゲート」と併せて、JR貨物グループ各社が持つ総合物流サービスの提供を可能とした。不動産事業では、外部物件の取得による賃貸マンション事業を引き続き重点施策として進め、不動産事業の安定した成長軌道の確立を目指してきた。

以上のような取り組みを行ってきたが、新型コロナウイルス感染症の第7波が猛威を振るうなど終息が見えない中、長期化するウクライナ情勢に起因する原油価格や資源価格の高騰、半導体の供給不足による生産活動の停滞、さらには、世界的なインフレに起因する急激な円安により、非常に厳しい外部環境が続いている。

一方、輸送動向については、8月の北海道・東北・北陸地区を中心とした大雨の影響により、一部不通区間が生じ、トラック・船舶を活用した代行輸送など輸送力の確保に努めたが、多くの貨物列車が運休となった。

この結果、本年度の上期決算状況は、非常に厳しい数字となることが想定されており、速報ベースだが、鉄道事業部門と関連事業部門で区分分けして部外へ開示するようになった2008年度以降、鉄道事業の営業利益、全事業営業利益及び経常利益は、最低の数字となりそうである。経常利益は東日本大震災の時の中間決算より悪いと想定している。

足元の動向は、下期に入り新型コロナウイルス第7派が終息を見せ始め経済活動回復の兆しが見え始めているものの、ウクライナ情勢の長期化に伴う原油高騰や日本経済の大きな円安による物価高騰に起因するコスト増及び消費者の買い控え等を受け、厳しい状況を余儀なくされている。

今朝時点までの営業日報ベースであるが、コンテナ収入は64,346（百万円）対計画97.2%、対前年100.2%、車扱収入は7,118（百万円）対計画99.2%、対前年101.9%、コンテナ・車扱トータルの収入は71,464（百万円）対計画97.4%、対前年100.3%で推移している。

会社としては、収入面ではコロナで距離の開いた顧客との関係性を縮めることを意識した営業活動、カーボンニュートラル及び2024年度予定のトラックドライバーの時間外労働上限規制対応のための鉄道利用メリットの訴求営業、販売促進プライシングの深度化などの営業戦略、総合物流事業への本格的な取り組み、引き続き関連事業収入の確実な計画達成を目指していく。

経費面においても、お客様需要や積載動向に合わせた列車の運転、輸送機材の効率的な運用、リスクシナリオ等の収支改善策で収入・経費両面をしっかりと実施し、10月期改定計画達成に取り組んでいく所存である。

以上、長々と申し上げたが、会社としては現時点における回答として、本年度の年末手当については、「2020年度年末手当の状況より厳しいと考えている」 以上である。

組合・2020年年末手当は1.6ヶ月であったが、この数値でよいのか。

会社・そうである。

組合・会社の状況が厳しいことは十分理解しているが、業績だけで期末手当を判断されては困る。将来を見据えた長期的なビジョンを描いて判断して頂きたい。大幅な物価上昇等で組合員の生活は疲弊しており、賃金改善が進まなければ会社全体の士気は落ち、夢と希望を持った若い社員はJR貨物の将来を危惧し、転職の道を選ぶことも考えられる。犬飼社長は「JR貨物の未来は明るい」と堂々と言っていたが、今の環境のままでは明るい未来は築けない。JR貨物の経営状況が厳しいことは誰もが重々承知しており、厳しい時こそ経営者の手腕が試される。日々、当たり前のように運行されている裏には、安全安定輸送に努める組合員のひたむきな努力があることを再認識していただき、回答予定日（11月18日）には、誠意ある回答を強く求めたい。

会社・貴組合の主張は承った。経営陣に伝えて回答日まで議論を深めていく。

以 上
